

**(2026/7/18 (土)) 令和8年度つるおか森の時間
「庄内砂丘の海岸林を散策しよう」 活動報告**



【開会式：山形大学農学部上名川演習林】

天気はくもり。

鶴岡市役所に集合して開会式を行った後、マイクロバスで海岸林の近くまで移動しました。



【湯野浜海岸林】

入林の許可を得たうえで湯野浜地域にある国有林へ。

山形大学農学部の菊池准教授、庄内海岸のクロマツ林をたえの会の梅津会長から、庄内の海岸林の変遷やマツ枯れの原因、その広がり方についてのお話を、現地でその状況を肌で感じながら伺いました。



【湯野浜海岸林】

散策した場所の近くで、植林されたクロマツを観察しました。このマツは品種改良された抵抗性のクロマツで、順調に育っている様子が確認できました。





【湯野浜海岸林】

海岸林に囲まれた林道へ。想像以上の海岸林の壊滅的なマツ枯れの状況を目の当たりにして大変驚きました。

ただ、枯れたマツも一定程度の防風の役割を果たしており、暫くはこのままの状態が保たれていく見込みとのこと。



【酒田海岸林】

酒田方面に移動し、許可を得たうえで国有林の敷地内に入林しました。

ここは、国道沿いのマツ枯れの箇所であり、道路への倒木等による二次被害を防ぐために皆伐されたエリアです。その区域内にはよく観察すると芽吹いてきた自然侵入した広葉樹が確認できますが、その広葉樹が育ち、将来的には防風林の役割を果たしていくことが理想であるとの考えから、その生育を見守っていくために蛍光テープによる「稚樹マーキング」作業を体験しました。



木の根元にはクロマツの赤ちゃんが！



【西郷地区農林活性化センター】

マイクロバスで移動し、西郷地区農林活性化センターに昼食休憩。

休憩後は、梅津先生から持参していただいたカミキリムシの標本や実際にカミキリムシに侵入された跡の残る枯れたマツを見ながらお話を伺いました。マツ枯れはマツノマダラカミキリに寄生するマツノザイセンチュウがその病原であり、そのマツノマダラカミキリがマツに入り込むことで、マツノザイセンチュウをマツに運んでしまいます。マツノザイセンチュウが入り込んでしまったマツは水を吸い上げることができなくなって枯れてしまいます。



【日和山公園】

日和山公園では、梅津先生から庄内の砂防植林の歴史について、公園内に残る石碑の解説を伺いました。





全ての行程を終え、日和山公園にて閉会式を行いました。

閉会式では、先生方からの講評と参加された方2名から感想をいただき、マイクロバスに乗って市役所へ戻り、解散となりました。皆さま、大変お疲れさまでした。